

<p>歴史・地理</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p>
<p><b>keyword</b></p>	<p>□ シンガポール社会と道教系宗教 □ 社会と軍事組織との関係についての文化人類学研究</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 道教系宗教</li> <li>■ シンガポール</li> <li>■ ジェンダー</li> <li>■ 家族支援</li> <li>■ 軍隊と社会</li> </ul>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
	<p>課題解決： 宗教組織や軍事組織を例とした統治の様式をめぐる議論とその理解</p> <p>シンガポール社会の宗教や、日本社会を対象とした軍事組織とその成員の配偶者について、ジェンダーの視点から統治の様式について理解するために文化人類学の枠組みで研究しています。とくに、2018年にはシンガポールの道教系寺廟が国境を越えた活動を繰り広げている点について、中国福建省とシンガポールで調査を行いました。その調査の内容に関しては2018年6月に弘前大学で開催された日本文化人類学会において発表しました。またシンガポールの寺廟や墓地といった、社会的な福利や厚生、親族の系譜や継承に関わる神聖な空間が歴史的な経過のなかで迫られてきた変貌と、それに対して行われてきた駆け引きについて、信仰を实践する人たちの視点から研究してきたものをまとめ、滋賀大学教育研究支援基金より出版費用の一部に対して助成を受け2018年に公刊しました。</p> <p>軍事組織とその成員の配偶者に関する研究では、“<i>Families, States and Military: Changes in Relations and Conditions</i>” というテーマで2018年11月に国際ワークショップを経済学部で開催し、海外6か国と国内からの研究者を合わせた12人がそれぞれの研究を発表し、意見交換を行いました。その成果は20019年にまとめる予定です。</p> <p>2015年にコペンハーゲン教育省から研究助成を受けた「現代における市民と軍隊との諸ネットワークに関する人類学的研究」という国際共同研究会において発表した内容は、近年の研究成果を加えてまとめ、共著書として2019年3月にBerghahnより“<i>Rethinking Civil-Military Relations</i>”として公刊される予定です。この本のなかでは、近年世界的な規模で国民国家の枠組みを超えた軍事組織の動きがあるなかで、それらと関わる組織の成員とその結婚、とくに婚活を巡って議論しました。</p>
<p><b>福浦 厚子</b> Atsuko Fukuura</p>	<p>経済学部 教授</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 専門分野</li> <li>・文化人類学</li> <li>・宗教と社会</li> <li>・ジェンダー</li> <li>・社会と軍事組織</li> </ul>	
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『都市の寺廟：シンガポールの神聖空間をめぐるポリティクス』単著、春風社、2018年。</li> <li>・『軍隊の文化人類学』共著、風響社、2015年。</li> <li>・日本学術振興会科学研究費補助金研究「祖廟進香における神と人との交歓に関わる文化人類学的研究」2016年から。</li> <li>・国際共同研究 The Anthropology of Contemporary Civil-Military Entanglements Network(The University of Copenhagen), 2015年度。</li> </ul>	<div data-bbox="558 1187 1308 1702" style="text-align: center;"> </div>